

平成11年12月24日第三種郵便物認可（毎年1.3.6.9月の1日発行）平成28年3月1日発行 第136号

# 曹洞禅グラフ

一仏両祖の教えを今に伝える

SŌTŌZEN  
GRAPHICS

No.136

2016

春彼岸



若い人たちよ、  
大いに悩みなさい  
ネルケ無方師インタビュー

聞き手=藤木隆宣

# 春彼岸です ご先祖さまの お墓参りを いたします

## 大藪正哉

おおやぶ・まさや

1932年、東京生まれ、1959年、東京教育大学大学院修了、筑波大学助教授を経て1977年、筑波大学教授、1995年、退官。駒澤女子大学講師、東京医科歯科大学講師、曹洞宗審事院委員などを務め、現在、東京天徳院住職、筑波大学名誉教授。

私どもが、

いま、生きています

ということ、両親から「いのち」をいただいて、いま、生きてます、という現実があるのだ、と思います。

そして、わが両親も、ご先祖さまから「いのち」をいただいて生きていたのですから、

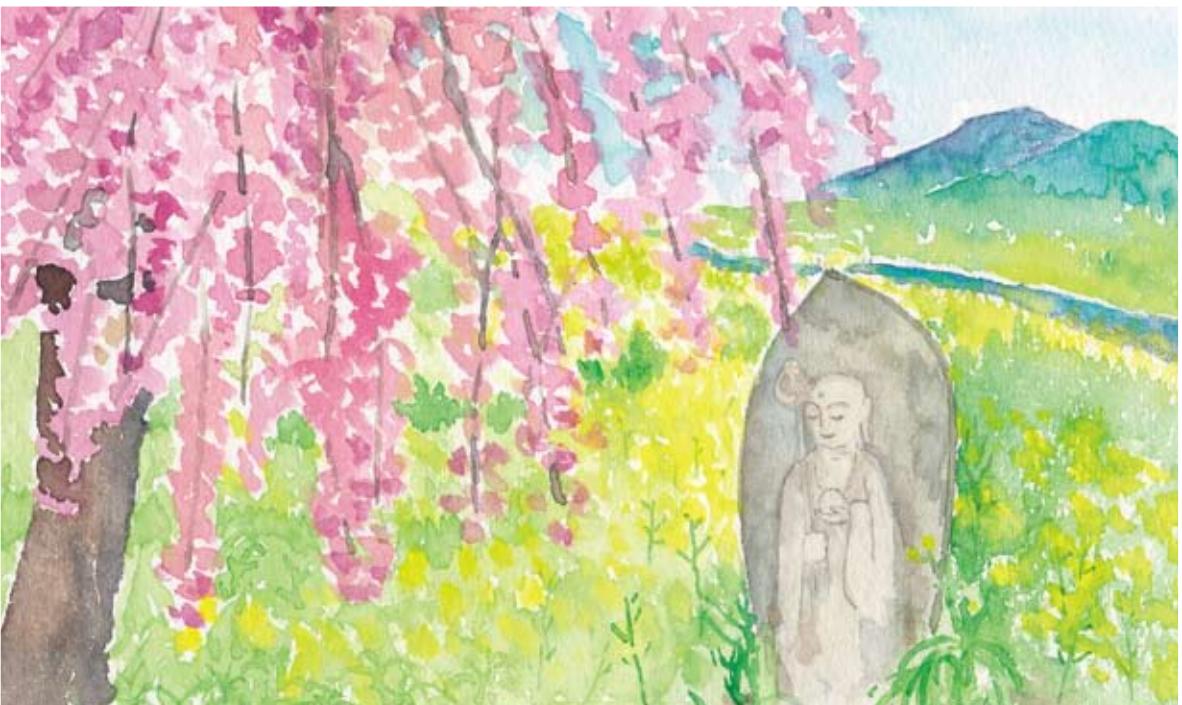
お彼岸には、ご先祖さまのお墓参りをいたしたいものです。とくにお中日は、どのカレンダーを見ても、休日になっておりますので、お墓参りをいたしたいものですが、お仕事の関係で都合が付かない方もおられると思いますので、お中日の前後三十日くらいの間に、ご先祖さまに感謝のお参りをいたしたいものです。

私は今年八十四歳になりますので、もうすぐ、おとまりになると思います。自分がお墓の中に入って思うことは、

「子孫がわざわざお墓まで来てくれたから、なんとか、守ってやりたいなー」

と思うであろうと、勝手に思っております。本当にそんなことが出来るのかどうか、全くわかりませんが、出来ることなら、「守ってやりたいー」と思っております。

私は後期高齢者になっておりますが、自分としては、末期高齢者になっておるぞ、と思っております。ときどき転んでしまうことがあります。擦り傷ぐらいで、骨を折るよう



挿絵 / 長谷川葉月

なことはありませんでした。これは、ご先祖さまが、守って下さっているのだ、と思っております。

私どもが、死んでどうなるのか、という疑問に、明快にお答えすることが出来る方は、あまり多くは居られないであろう、と思えますが、もうすぐ、おとまりになる私にとつては、自分の信念として、「このようになるであろう」という思いがあります。

『般若心経』というお経の中に、

色即是空 空即是色

という文言があります。これは

色は即ちこれ空である

空は即ちこれ色である

と読めると思います。ここで使われている「色」という漢字は、「赤い色」「緑色」という色が付いている色」という意味で使われているのではなく、「いろいろなもの」という意味で使われています。

「空」という漢字、これは「からっぽ」を意

味しております。私は「からっぽ」の一番大きなものは「お空」であろうと思っておりますので、これは「宇宙」のことを表現しているであろう、と勝手に考えて、この大きい「からっぽ」の宇宙には、莫大なエネルギーがこもっていると考えられますので、私は、「空」は「宇宙のエネルギー」と理解したい、と考えてみました。このように考えると、色即是空は

いろいろなものは、

みんな宇宙のエネルギー

空即是色は

宇宙のエネルギーが、

いろいろなものになっている

と理解してよいであろう、と勝手に考えてみました。このように考えてみると

ご先祖さまは、

みんな宇宙のエネルギー

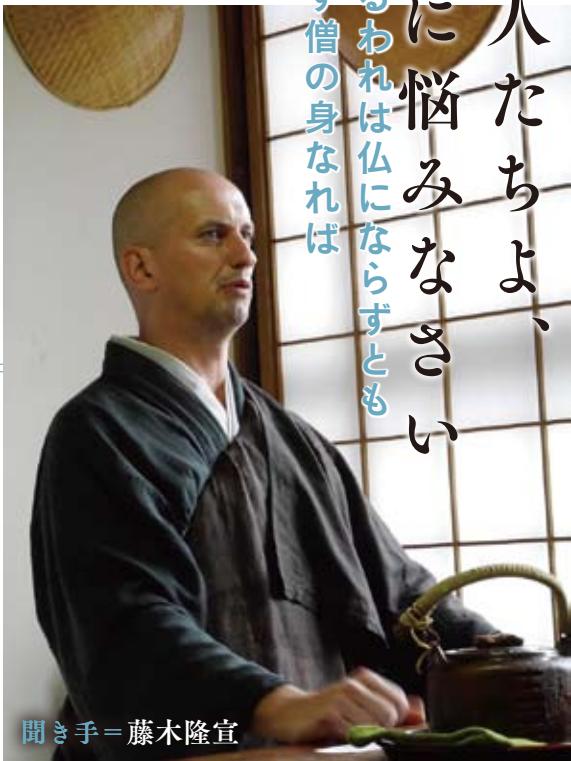
私も一人一人も、

みんな宇宙のエネルギー

と考えることができますので、本当のことは全くわかりませんが、「ご先祖さま」は、遠いところにおられることもあれば、私ども一人一人のすぐ横におられることもあるであろうと考えられます。

私どもが、ご先祖さまのお墓参りをするこによって、ご先祖さまのご加護がいただけるであろう、と固く信じております。

若い人たちよ、  
大いに悩みなさい  
おろかなるわれは仏にならずとも  
衆生を渡す僧の身なれば



聞き手= 藤木隆宣

### 持続可能な生活は 安泰寺モデルで

**藤木** ネルケ無方さんは大学生の時一年間、ドイツ人留学生として来日、安泰寺に上山して半年間修行された。その後帰国され、大学卒業後に再度安泰寺に入門、八代目の堂頭・宮浦信雄老師の弟子になり、老師なき後ご住職を継がれたわけですが、まず今の世の中に伝えたいこと、言いたいことがありでしたら、お聞かせいただけますか。

**ネルケ** そういう意味では私自身、まだ求道者です。今、とくに三・一一（東日本大震災）から多くの人が感じていると思うんですが、このままでは進まないということ。例えば日本では、バブルがはじけて二十年間失われたと言われて

した生き方ができればいいのだけど、これはあくまでも理想であって、いかにして現実の社会において実践できるか、私も分からないんです。

ですから、私が今の社会に生きている人に提言したいというよりも、私も求道者としてそれを模索中ですけども、これからの世界、今ターニングポイントに立っているこの世界の、一つのモデルとなる生活が安泰寺でできたらいいなと感じています

### 今ターニングポイントに立っている

ところで。安泰寺には外国人が多いので、外国人と日本人と一緒に修行することに大きな意味があると思うんです。二百年前には鎖国ができたけれども、これからの日本は世界という大きな機械の一つの歯車として、うまい具合にほかの歯車とかみ合って回らなければいけない。これも一つのこれからの日本人の課題ですね。

日本国内は平和ですし、どこの国とも戦争しているわけではないけれども、外交などの面では、いまひとつ日本人が自分たちの意思を伝達

いますけれども、それは右肩上がりの経済成長が再び起きたとしても、決して解決にはならないと私は思っています。世界人類というスケールで考えたら、このまま経済成長し続けたとしても、資源には限りがあるし、環境破壊がこれ以上進んだら大変なことになります。

経済成長よりも、持続可能な生活がまず問われていると思う。仏教以前の問題で、人類がこの惑星で生きるために、いかにして持続可能な生活ができるか、それが一つ、私たちに課された問題です。資本主義も行き詰まっていると言われていきますし、私もそう感じています。かといって、資本主義に代わる次のモデルは何か。ここがまだはつきりしていない。道元禪師の『正法眼蔵』でいえば、菩提薩埵四摂法のような生き方、布施・愛語・利他・同事、これを基本と

するのに得意じゃない部分がある。自己主張が得意ではない。ヨーロッパでもいろいろ、例えばギリシャとか移民の問題とか、いろいろもめているけれども、まだ対話ができる基盤みたいなところがあるわけです。ところがアジアを見ると、多くが仏教国であり、また儒教の基盤もあるのに、なんで中国と韓国と北朝鮮と日本と、これだけ距離があるのか。なぜもつと対話できないのか、一番不思議に思うんです。

安泰寺には欧米人が、オーストラリアやヨーロッパ、アメリカから

来る、中国人も来ますし、以前シンガポール人が三人いました、そこに日本人がいて、同じ釜の飯を食って、作務と一緒に汗を流して、同じ風呂に入って切磋琢磨し合う。これがこれからの世界のモデルになれたらいいなと思っています。ただ、現時点ではまだ答えは出ていない。こうすればうまくなるというのはないんですが、一つの模索中のモデルです。

### 僧堂と家庭との バランスをとりながら

**藤木** ネルケさんはご結婚なさっていて、お子さまもいらつしやると伺っておりますが、お住まいはご一緒に。

**ネルケ** そうです、この奥に私の妻と三人の子



安泰寺のご本尊様

若い人たちが、大いに悩みなさい

いただと、弟子の育成に  
 して道元禅師は『学道用心  
 集』の中で、師匠が木工のよ  
 うなものならば弟子は木材の  
 ようなものだといっておられ  
 ます。有名な話ですが、家が  
 ゆがんで建った場合は木材の  
 せいではない、大工のせいだ  
 と。どんな優れた木材であっ  
 ても、大工が駄目なら台無し  
 になってしまふ。逆にちよっ  
 とひねくれた木であっても、



薪で煮炊きをする厨房

が、私自身、師匠にほれて  
 入門して出家得度させても  
 らったんですが、実際にず  
 っと毎日師匠について修行  
 していると、師匠のよくな  
 い面がだんだん見えてきま  
 す。  
 例えば結婚もそうですが、  
 愛し合って結婚したのが、  
 三年たち五年たつと、相手  
 の嫌な部分ばかり見えてく  
 る。師匠といえどもそれは

外はなるべ  
 く弟子たち  
 と、もちろ  
 ん家族を放つたらかしているつもりはないので、  
 子供の送り迎えですとか。ただ、それがいき過  
 ぎると、今度は五日接心ができなくなってしまう  
 うので、そのバランスの取り方が私自身の悩  
 みの一つです。  
**藤木** お子さんたちに日ごろ伝えていることと  
 いうのはありますか。  
**ネルケ** 伝えていることはそんなにないですね。  
 一番上の長女がまだ十二歳、長男が十歳で、子  
 供と大人の境目といえますか、それより下でし  
 ようから、少しづつ大人の会話ができるように  
 なったというところです。  
 子供の教育とともに弟子の育成の話を見せて

どんな優れた木材であっても、  
 大工が駄目なら台無しになってしまう

大工がそれを床の間の柱にし  
 たり、素晴らしい作品に変え  
 ることができる。だから、全  
 ての責任は師匠にある、弟子には責任がないと  
 道元禅師は言われています。

ばかな弟子には  
 ばかな師匠しか来ない

**ネルケ** 道元禅師の言葉は家庭においても、親  
 についても言えることです。よく親の口から、  
 こんな子に育てた覚えはないと言われども、  
 それは大工がこんな家は建てた覚えがないと言  
 っているようなものであって、木材のせいにし  
 てはいけません。ただ、弟子たちによく言うこと  
 で、ゆくゆくは子供たちにも伝えたいことです



問題で、安泰寺の  
 堂頭を務めながら、  
 家庭の中では父親  
 という役割がある。  
 ここで子供たちが  
 走り回ったりする  
 と、接心もできな

**ネルケ** それはしません。三人の子供の世話で  
 忙しいのがありますし、都会っ子ですから、あ  
 まり農作業に興味がないようです。台所も別々  
 にして、食事も別です。そこが一つの私自身の  
 問題で、安泰寺の  
 堂頭を務めながら、  
 家庭の中では父親  
 という役割がある。  
 ここで子供たちが  
 走り回ったりする  
 と、接心もできな

**藤木** そうですか。ご  
 一緒に農作業もされま  
 すか。



くなってしまうので、ある程度分離しなければ  
 いけない。安泰寺の修行僧たちは仏生  
 伽毘羅を唱えながらいただくわけですが、そこ  
 に子供を交えるとかやっぱり雰囲気が変わってし  
 まうので、そこは分けて食卓は別に行っている  
 ということです。

ただ、完全に家庭を切ってしまうと父親とし  
 て失格ですから、結婚した以上はそこも責任を  
 持って自覚を持たないといけない。現時点で、  
 私は朝と昼は修行僧たち、弟子たちといただいて  
 て、薬石だけ、夜だけは家族といただいている  
 んです。放参は家族と過ごしています。それ以

若い人たちよ、大いに悩みなさい



安泰寺本堂(1977年に京都から移築された)

りましたら。  
**ネルケ** まず、大いに迷うことです。迷うことは決して悪いことじゃない。道元禪師が『現成公安』で「迷を大悟するは諸仏なり」と言っているように、自分が迷っている、迷いのどん底にいることにまず気づくことが大事です。あるいは『学道用心集』の中にも、迷いの最中に行を立てると。発心して、そこから行を始める。迷いのない人は大心を起こさない。ですから、迷うことは非常に

大いに迷うことです。  
 迷うことは決して悪いことじゃない

いことだと私は思います。  
 私が最初に日本に来たのは一九八七年、高校を卒業してすぐに三カ月だけホームステイをしました。まだバブルの最中でみんながうきうきと浮かれた時でしたが、私の目から見ると今のほうが全然いいですね。なぜかという、あの時は幻だったということに今の若い日本人は気づいています。本当はどうしたらいいかわからない、迷っている、そして自分が迷っていることに気づいているんです。ところが、今から二十五年前、三十年前の日本人は気づいていなかった。このまま順調にいけば、二十一世紀は日本の世紀だとGDPはアメリカを追い越してトップになるかもしれないと、そんなことが言われていました。そしてバブルがはじけた。  
 だから迷っている人に対して言えることは、迷っている自分でよかったじゃないかということに、まず気づくことです。迷っていないければ駄目なのだと、お釈迦様だって迷いから出発しているし、道元禪師だって、悟りに大迷するのは衆生だと。悟り、悟りと、それを振りかざしている人がいれば、それこそ救いようのない凡夫です。けれども、自分は迷っているんだと、悟りのさの字もない、そういう人こそ、もう仏道を踏み出しているわけです。私もそういう迷っている人の仲間の一人だと私は思っています。

一緒に、最初はお釈迦様の代わりとして、それこそ仏の見本と想ってついた師匠だけれども、酒も飲めばたばこも吸う。よく腹を立てる。こんな師匠のどこがお釈迦様だと、お釈迦様と比べると、あまりにもお粗末だ。  
 お釈迦様は何千人も弟子がおられたと言われていきますけれども、恐らく摩訶迦葉が見たお釈迦様と、阿難陀が見たお釈迦様と、目連が見たお釈迦様と、ましてや提婆達多が見たお釈迦様はみんな違っていた。みんな自分の目で見ていたわけです。君の見ている師匠がばかならば、



それは君の眼鏡に問題があるということも言えるんですね。ですから、私は弟子たちには口が曲がっても、君たちの修行が進まないのはこのお粗末な私のせいですとは言わない。



自然の木を仏様にみたくて

このお粗末な師匠を教育するのは、君たち弟子だ。  
 これは親子関係にも言えることでしょう。もちろん親ですから、ネグレクトして育児を放棄してはいけません。責任を持って教育しなければいけない。それでも、親がまた子供に教育される部分も多いと思いますし、むしろ子供からこちらをつくる、親をつくり上げるといふ積極的な働きを導き出すということも大事だと思います。一方的に私が子供たちに教え込むのではなく、私が子供から学び、また子供たちが私という父親をつくるという作業を手助けする、そういうことが大事じゃないかと思う。そういう意味では、師匠と弟子と、親と子供の関係は非常によく似ています。

仏道に踏み出すのは  
 迷いの中からこそ

**藤木** なるほど。最後に、安泰寺をたずねる日本人で、生き方に迷っている人たちも多いかと思われませんが、そういう人たちに何か提言がある

若い人たちよ、大いに悩みなさい

迷いの解決は見つけていない、でもそれは死ぬまで見つけれなくてもいいのではないか。  
むしろ迷いをはっきりさせて、そこで菩薩という方向に向かって、それこそ道元禪師が言われた「おろかなるわれ」です。私は迷っている、ばかなんだ、どうしたらいいか分からない。けれども、この「おろかなるわれは仏にならずとも」、仏になれないかもしれないけれども、「衆生を渡す僧の身なれば」。それでも人のために、この社会の中の一人として生きて、この社会のために何ができるかという、そういう問題意識は晩年の道元禪師にすごく近いと思えますから、このまま一緒に迷って、一緒に苦しんで、社会を救ってあげましょう、そういうことを言いたいですね。



本堂兼坐禅堂

ネルケ無方師の著書『迷いながら 生きる』を5名の方にプレゼントいたします。仏教企画(下欄の送り先)まで、お名前・ご住所・電話番号・プレゼント名を明記のうえハガキでご応募ください

平成28年5月末必着



読者プレゼント

曹洞禅グラフ134号(秋・彼岸号)プレゼント  
「ラジオ カフェ・モック」は次の方が  
当選されました。

宮城県/浅野かつ子様 東京都/小池立馬様  
栃木県/駒庭英夫様 新潟県/坂野恵子様  
東京都/野本絵美様

身近な人との心温まるふれあいや本誌への感想、仏教についての質問などを600字以内でお寄せください。Eメールでも受け付けております。

お便り募集

送り先.....  
〒252-0113  
神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5  
仏教企画編集部  
Eメールアドレス.....  
fujiki@water.ocn.ne.jp

読者からのお便り 野本絵美様

金田諦應住職のお話しは心にグッとくるものがありました。  
カフェデモンクでお地藏さまを作っていたので、私も作りたいと思いました。

# 毎日書道

高橋秀榮

開経偈  
無上甚深微妙法  
百千万劫難遭遇  
我今見聞得受持  
願解如来真实義

開経偈  
無上甚深微妙法  
百千万劫難遭遇  
我今見聞得受持  
願解如来真实義

たかはし・しゅうえい  
昭和十七年北海道生まれ、  
駒澤大学仏教学部卒業、  
同大学博士課程修了、元  
神奈川県立金沢文庫長。

## 作品集

ご家族のみなさまの応募をお待ちしております

お手本を参考にして、作品を半紙(横向、お名前は左側)に書いてご応募ください。(無料)  
ご応募の中から優秀な作品を選び、年に1度誌上で発表し、記念品を贈呈します。  
住所、氏名、電話番号を明記して作品をどしどしお寄せください。

送り先 〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5  
仏教企画 ☎042-703-8641

締切 平成28年5月末

湯川れい子  
私の人生、  
いつも音楽があった

聞き手 西館好子

REIKO YUKAWA

## 第4回

## 音楽の力を信じて

### 子供の多感な時に心を豊かにする音楽を

西館 湯川さんと一緒に被災地へ行きましたでしょう。その時に、絶対歌わないといっていた人が、私たちが歌った後に続けて歌って、いつそれを覚えたんですかと聞きましたら、全然記憶にはないという。でも歌っちゃう。音楽はそういう力を持っているんですね。

湯川 そうですね。ただ「パーソナル・ソング」という映画に関連してちょっと問題だと思うのは、例えば今老人ホームにいらっしやる七十年代、八十年代の方で、その人が子供のころから思春期の一番多感な時に、どういう音楽を聴いていたのだろうかということを調べてみると、これが日本の場合はないんですよ。アメリカの「パーソナル・ソング」に出てくるように豊かな音楽がない。

西館 一番感受性の強い時の音楽、かつてはあったんじゃないでしょうか。

湯川 いいえ、それでも学校唱歌とか。

けですよね。ベニー・グッドマンもいたし、グレン・ミラーもいたし、フランク・シナトラも歌っていました。そういう歴史が、アメリカの場合は戦争中もあつたんです。戦争中も、高校卒業の時にはプロムというダンスパーティーがあつて、初めてデートしたとか、音楽が常に身近にあつた。黒人にはラグタイムとか教会音楽があつたり。

西館 どうでしょう、わらべ歌とか民謡とか、また例えば祭りがあつて、日本の地域が持つてい



日本音楽療法学会の理事長 日野原重明先生と副理事長の村井靖児先生と

子供の感性の豊かな時に、お父さんとお母さんが家で何を聴いていたかなんです

西館 唱歌・童謡は入りませんか。

湯川 唱歌でも、それが初恋とか初デートの楽しい記憶と結び付いているわけじゃないんですね。西館 ということは、日本には本質的な音楽はなかった。

湯川 前におっしゃった盆踊りにはあつたと思うの。ただ戦争中は盆踊りもなかった。

西館 もう廃止ですからね。

湯川 アメリカでは本当にわくわくするような音楽、私の長兄に赤紙が来て招集されるころ、「スリーピー・ラグーン」が大ヒットしていたわ



新たな子守唄「うまれてきてくれてありがとう」を唄ってくれた歌手クミコさんと

る音つてありますね。そういうものが心に残っていることはないですか。

湯川 あると思います。ただ、個人差がすごく大きくて、例えばその人が山形にいたのか東京にいたのかで違うし、その音楽がどういう背景にあつたかは全然違うので、一人一人の追究がすごく難しいんです。

西館 心を豊かにするような音楽には、まだ到達していない。

湯川 でできれば、本当に一番欲しいなと思うのは、幼稚園から高校三年生ぐらいまで。

西館 一番感性の豊かな時ですね。

湯川 その時に、さまざまな音楽を選択できる環境を与えてほしいと思うんです。

### 子育ては音楽のあふれた家庭で

湯川 「パーソナル・ソング」でもそうなんですけど、そういう子供の感性の豊かな時に、お父さんとお母さんが家で何を聴いていたかなんです。何を楽しそうに聴いていたか、お父さんとお母さんがダンスをしていたとか、お母さんがピアノを弾いていたとか。

西館 それは今ますますなくなっていますね。家庭の中で男と女のつながり、お父さんとお母さんのつながりが稀薄になっています。とくに、お母さんが働きに出ていると、家庭を、そういう心を育てる場所にしようとするのは難し

いでしよう。

湯川 本当についてこの間まで、お父さんたちはワーカホリックだったし、お父さんは外で飲んだり歌ったりしても、うちの中には音楽がなかった。結婚というものが、男女の単なる快樂的なセックスではなくて、やっぱり家庭というものの、一つの社会の単位としての結び付きを生むものだということが稀薄になってきました。

西館 そうですね。そうすると、今の子供たちは本当に豊かな心にはなれない。湯川 なれませぬね。「パーソナル・ソング」から見ても、やっぱり根っこは深いなと思います。だからもしかしたら、盆踊りって、すごく大事なだったのかもしれない。

西館 私は大事だと思いますね。地域もつながりも情感も、全部盆踊りや祭りがもっている。家庭でもそれが生活に密着しているという点でも。

湯川 うちの場合は海軍の軍人でしたけど、父と母がすごく音楽が好きで、戦争が激しくなるまでは常に家庭の中に音楽があふれていました。今でもよく覚えていますが、中秋の名月というところわざ広い廊下にお月見のお団子を飾って、ススキを飾って。

母はそれに合わせてお琴で。戦死した長兄とか姉が隣の部屋でピアノを、「六段」とか「千鳥」とか、一緒にやっていましたものね。私はお茶碗を並べられて、これで好きな音を出しなさいと言われて、チンとか、チャカチャカとか、やっていましたものね。

西館 それはそういう背景を持てば、いや応なく湯川さんのように育ちますよ。そこが今一番世の中に欠けてきちゃった。家にテレビの音はあっても、音楽がない。

湯川 家庭の崩壊ですね、大きいのは。家庭が崩壊していたら、親子の結び付きがなかったら、自分を愛するとか愛されるとかいう感覚が育たないわけじゃないですか。小さな子供とお母さんが一緒に歌うというような、時間と空間を共有することがなくなっちゃったんです。社会的にも、人と人との結び付きというのがなくなってきましたね。

### わくわくして嬉しくなるような音楽

西館 音楽の力というものを考えますと、例えば湯川さんがプレスリーやビートルズに出会った時、これだと思ったものがあるんじゃないでしょうか。それはすぐに察知なされたわけ？

湯川 はい。エルビス・プレスリーが出てきた時、実はアメリカではニュージャージーの知事さんなんかが、こんな下品な音楽を聴くとアメ

そこが今一番世の中に欠けてきちゃった。家にテレビの音はあっても、音楽がない。



西館 そんなですよ、大事なのは。人が自然と同化できる。

湯川 父は端然と座って、月に向かって尺八を吹く、リカ社会は壊れると。だから、みんなエルビスのレコードを持ってきて、たたき割るなんていう運動をやったんです。

西館 最初はどこも同じということ。

湯川 ええ。例えば、エド・サリバン・ショーで有名な芸能記者のエド・サリバンは、シナトラは喜んで自分の番組に出しても、エルビス・プレスリーは絶対出さないと云っていた。彼はアメリカのカトリックの協会の名誉会長などをしていましたので、まさかエルビスを出すなんていうことはあり得ないと思っていた人たちもいたわけです。ところが、エルビスの人氣がすごいことになって、視聴率競争には勝てなくて、結局、エルビスを出演させます。その時、彼の下半身の動きが非常に卑猥だということで、下半身を映すなど、バストアップだけしか映さないことになった。その結果は、考えられないような、四二%ぐらいのすごい視聴率です。

なぜエド・サリバンはエルビスを出したがらなかったかというところ、エルビスの持っている音楽性というのは実は黒人のブルースやリズム・アンド・ブルース、黒人の教会音楽というのが根強くあって、それを良識的な白人の茶の間に持ち込むことに拒絶反応があったということなんです。本当に南部の、土地も持たないような小作人の、無教養な青年という位置づけでしたから。それがセクシーに

### 私の人生、REIKOYUKAWA いつも音楽があった

音楽療法のお話で、スピリチュアルなものはすべて科学ですと言いましたね。それは例えば、オウム信者たちが空中遊泳とか、幽体離脱だとかにびっくりして、特殊な能力だと思ってしまった。高等教育を受けた人たちが何であんなものに陥ったかという、彼らは一生懸命受験勉強だけして体を動かさなかった人たちですね。小さい時から体を動か

もありません。音楽療法のお話で、スピリチュアルなものはすべて科学ですと言いましたね。それは例えば、オウムの信者たちが空中遊泳とか、幽体離脱だとかにびっくりして、特殊な能力だと思ってしまった。高等教育を受けた人たちが何であんなものに陥ったかという、彼らは一生懸命受験勉強だけして体を動かさなかった人たちですね。小さい時から体を動か



ゆかわ・れいこ  
東京生まれ、1960年ジャズ評論家としてデビュー、作詞家としても活躍。1972年ころより音楽療法について関心を深める。NPO法人日本子守唄協会会長・日本音楽療法学会理事。



にしだて・よしこ  
東京生まれ、劇団こまつ座・みなと座、リブ・フレッシュを設立。日本子守唄協会理事長、遠野市文化顧問などを務め、子育て支援に資するために活動中。  
<http://www.komoriuta.jp>

歌って、女の子がきやあきやあ騒ぐことに、

アメリカでも拒絶反応があった。一体、この拒絶反応というのは何なんだろうとじっと見ていると、要は理解できていないだけ。異文化に対する拒絶反応と焼きもちなんです。

湯川 焼きもちを焼いたのは、ほとんど男ということでしょう。

湯川 そうですね。ただ男も女も、あのセックスアピールに熱狂する。それは本能的なもので、本当にわくわくして、もっと嬉しくなっちゃって。

西館 それは音楽の力と言えますか。

湯川 音楽だけじゃなくて、音楽というものを媒体にして声があつて、ルックスがそこにあつて、肉体ということですね。エルビスが立っているだけで、皆さんこんにちは、と言うだけで、きやあと言う。

西館 素敵でしたもの。それに、そのエルビス・プレスリーが非常に深い悩みを持っていましたね。

湯川 晩年ね。そのころにはボーカリストとしての与え給うた、と。それは、牧師さんは言葉で神を伝えるけれども、エルビスは音楽によって人を元気にする使命を与えられたのだから、生涯歌えと。お前は歌うことが使命だというメッセージを受け取ったらしいんです。彼はずっと稲妻の形のTCBと書いたペンダントをしていたんですけれど、それは雷が落ちて、神様から受けた啓示だったそうです。

西館 天才には啓示があるのかしら。

湯川 それは天才だけじゃなく、もしかしたら私たちだって、雷が通り過ぎると植物が生き生きして空気が澄むとか、何かそういうものを感じるじゃないですか。

西館 湯川さんはそういうスピリチュアルな世界、興味をお持ちですものね。

湯川 はい。だって音楽は目に見えないんですもの。目に見えない音楽にどこがどう感動するかということには、ずっと興味がありました。今もありません。

異文化に対する拒絶反応と焼きもちなんです

西館 魅力が出てきました。だんだん白い衣裳を着るようになったそうですね。それは双子のお兄さんを弔いながら歌っていたと、そういうお話をうかがった時、魅力がもつと膨らみました。

神はエルビスに歌という使命を与えた

湯川 彼は南部のキリスト教信者でしたが、キリスト教をはみ出して、もつとスピリチュアルなもの、つまり宇宙とか生命の成り立ちとかいうものにまで興味を持った。だからチベット密教を勉強したり、仏教を勉強したり、いろいろしていたようですけれども、そんな中で、音楽的な素養も教養も何もない自分が、一夜にして大スターになってしまったということには、生涯悩んだようなんです。

西館 そうでしたか。

湯川 生涯悩みながら、いろんなところに神というものを探したんですけど。彼のメンフィスの家の庭にメデイーション・ガーデンという、瞑想の庭というのを造りまして、そこでヨガとか瞑想とかをやっていた。するとある日、その瞑想の庭の、お母さまのために建てていたキリスト像に雷が落ちるんです。その時に天啓を受けたらしい。それはずっと、心の中で問い続けていたからだと思うんですけど、天啓を受けて、神はエルビスの声にエレキを

かさなったり、日常の中で体験できる小さなスピリチュアリティというのをまったく知らないで来てしまうと、それがとても不思議なことに思われるでしょうね。

だけど、実は私たちだって何かずっと集中してやっていると、瞑想もそうですけど、自分の意識が体から抜け出して、自分を上から見ているとか、ちよつとした超常現象が起きるんですね。音楽もそうなんです。その中で本当に陶醉しきって、完全にその音楽の中に入ると、いきなり宇宙がえらく広くなってしまつて、全部が俯瞰して見えてしまう。そういう体験は馬拉ソンでも音楽でもしますから、別に不思議なことじゃないんだけど、受験勉強ばかりやっているとそれが分からない。だからあれは、尊師だから見せてくれたわけでもイェス・キリストだから見せてくれたわけでもなくて、そういう世界が実はあるんだということなんだと思います。

〈完〉

# 曹洞宗の書・拝見

早いもので春のお彼岸を迎えます。万物生成の春です。春らしい掛軸を紹介します。

「一夜花開世界起」——「一夜、花開いて、世界起ると訓みます。

一輪の花が咲く。それが真実の悟りの世界です。

「正法眼蔵」梅華の巻にこの言葉は出てきます。

書いた人は無隠道費（二六八八―一七五七）です。

昨年、秋号に紹介した無得良悟の法を嗣いだ人です。

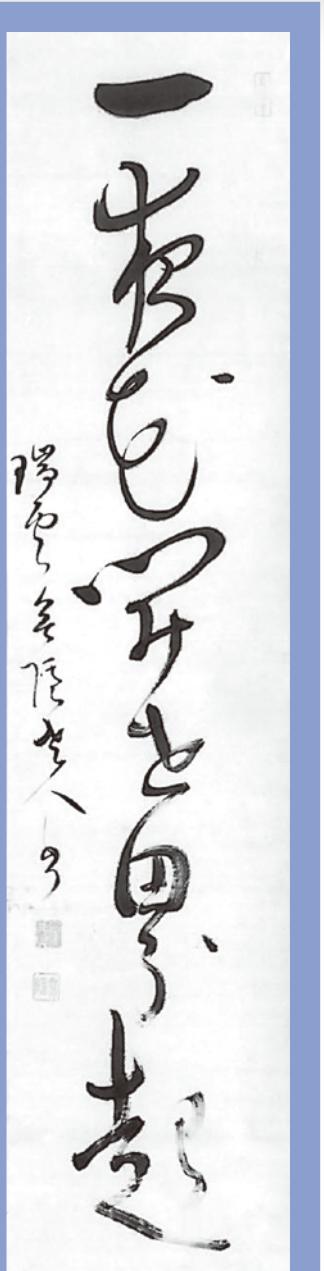
無得禅師は肉太で迫力がある書体でしたが、無隠禅師は繊細でなめらか、さっぱりとした書きぶり、こだわりを感じさせないもの。

漢字を書いていて、平仮名を書くような心づかいが見えます。

無得禅師のあとを継いで石川県実性院、山口県大寧寺等が主な住地です。

この無得・無隠の法系は現在も継続し、文章筆硯を重視する流れです。

ついでながら無隠禅師の詩集「無孔笛」は江戸時代より、宗門僧侶に愛読されました。



無隠道費 書



瑞岡珍牛 書

次は「碧玉盤中珠宛轉」——碧玉盤中、珠宛転と訓みます。

碧い水晶のような盤の上を丸い玉が自由自在にまわり、ころがる。

つまり、物事がスムーズにいく、

世の中、何事もこのように動いてくれればということはないのですが、

仲々、そうはいきません。

せめて、この言葉を脳裏に刻んで、珠宛転と念じたいものです。

雄渾な筆づかいで一氣に七文字を書き貫ぬいて、珠が転がっている感じです。

瑞岡珍牛（一七四三―一八二二）は宗門では珍しく絵も書いた人です。

そのうち、宗門画僧もとりあげる予定です。

全国各地に任職し、長野県全久院、岐阜県龍泰寺、大阪府法華寺、名古屋市万松寺を経て、

最後は名古屋の慶雲軒（現永平寺名古屋別院）に住しました。

無隠・珍牛両禅師の書画はよく見かけます。宗門尊貴のものです。

（二幅共、正泉寺所蔵）

## よしおか・はくどう

1942年9月27日、静岡県生まれ、駒澤大学仏教学部卒、永平寺僧堂研究科修了。現在静岡県藤枝市文化財保護審議会会長、禅文化・洞上墨蹟研究会会長、正泉寺東堂。

**被**

被災地の皆さんの辛さに少しでも近づける人間でありたい」と、立ち上げた「見まもり観音堂建立の会」が長野県佐久市の蕃松院・大林寺(増田友厚住職)にある。

震災後、直ちに東北へ救援にと、それぞれの家から日用品や米、缶詰めなどの救援物資と募金を、いつもみんなが集まるお寺に持ち寄った。

そして三月末日、トラック二台半の救援物資とガソリンも載せ、増田住職と地域の有志十名は東北に向かった。荒れ果てた海岸や町の道路らしき道を探し、その惨状を目にしなから石巻の旧知の寺を訪ねた。最も必要とさ

れる救援はどこなのかなどの情報を得て、各地の避難所をまわり物資を届けた。その後、数回、物資を集め、村々の避難所を訪ねた。

震災から一年半、徐々に道路や建物が復旧する様子も目にしたが、被災者の話を聞くほどに、まだまだ犠牲者遺族の癒えぬ悲しみは深かった。

「物資を差し上げるばかりではない、何か、被災地の人々の心が静まり、温まる、そして



増田友厚住職

## 本堂全壊の中から 奇跡の観音様



### 東日本大震災二万人の命の供養 思いを寄せるお堂を建てたい

見まもり観音堂建立の会  
長野県佐久市

継続的に寄りそう取り組みができないものだろうか」と皆で考え始めた頃、石巻市・桃浦の荻浜小学校の避難所で、家族で避難していた同市洞仙寺の八巻芳栄住職との出会いが思い出された。

#### 奇跡の観音様との出会い

「寺は地震と津波で本堂、庫裏とも全壊。この観音様は壊れたり傷ついたりした多くの仏さまの中、本堂の梁の上で不思議なほど無傷でした。ことごとく破壊された漁村の家々とそこで暮らしていた人々を案じ、語りかけるように見まもっておられたのです」と、八巻住職の言葉。

その観音様は高さ1・5メートル、木彫で

彩色された聖観音。その話を聞いたボランティアの人たちからは「奇跡の観音様」と呼ばれていた。

その出会いから、支援者とともにお寺の敷地内に観音様のお堂を建てようと心願。「見まもり観音さま」と名づけ、二〇一三年二月に「見まもり観音堂建立の会」を発足。

犠牲になった二万人の供養として「祈り」、長期復興支援への誓いの光「希望」、被災地に生きる人々との縁を結び続ける「縁」をコンセプトに、建立資金を募った。

発起人は六十人、組織を持たない集まりなのでそれぞれが友から友へ、親から子へと一人ひとりに語りかけ、思いを伝え、賛同者の輪が少しずつ大きくなっていく地道で確実な取り組みのスタートだった。同年八月の「建

立の大集会」では、「笑点」の円楽師匠も応援に駆けつけ、蕃松院本堂は九百人の賛同者で溢れた。

## 被災地六十力所での浜供養 二万個の小石(浄石)を拝集し写経

同時に、亡くなられた方々の命と同数の小石二万個を海辺でひろい集め供養する「浜供養と浄石拝集」を始めた。  
大型貸し切りバスで早朝に佐久を出発し、現地に着くと昼過ぎ。地元の人とともに物故者慰霊法要のあと、浜で石をひろい、次の浜に向かい法要、そしてまた石をひろう。一日数力所の浜を巡る。



東北の浜で石を集める

めて小石を集めた。

小石は持ち帰り、洗い、乾かしたあと、心をこめて写経され、お堂完成時には観音様の周りに奉納される。

かなりの作業量ではあるが、百人を超すボランティアが率先して力を尽くす。

昨年十月二十四日には市内の市民ホールで「浄石写経会」が開かれた。会の活動報告、浜供養、小石(浄石)を集める姿がスクリーンに映され、応援者の柳家花緑師匠の呼びかけで、五百人の浄石写経が進められた。



見まもり観音堂完成予想図



浄石に写経する

事前に地元の寺の檀家さんから村の人々へ、慰霊の法要の予定を伝え、またすでに浜の慰霊碑があるところではその碑を建てた人たちに声をかけ、現地の人を交えて、浜供養が行われた。

「『もつと生きたい、もつと生きたい』と願いながら、あの津波に流された多くの人々の心の叫びを、浜の小石は聞いていたんだと思います」とてもつらい亡くなり方でしたから、せめて、いいところに迎えられるように欲しい」と、浜供養参列の方々は話された。

供養は、二〇一四年三月に石巻市から女川町にかけて始まり、七月には南三陸から大槌町、九月には仙台市から南相馬市、翌年六月には青森市から気仙沼市、十一月には茨城から千葉県にかけて行った。一泊二日で全五回、六十力所以上で亡くなられた人への思いをこ

## 建立目標額にもう一步

同会事務局長の竹内聖哲さんは言う。「被災地に向け、同級生で何とか救援物資を届けなければと集まりました。皆、何かをせざるはいられなかった。地域の皆さん、檀家の皆さん、老若男女さまざまな方の協力を得て、『観音様のお堂、やらっちゃねいかい』と、会を立ち上げました。今は協賛者も北海道から沖縄まで四万二千人を超え、浄財も四千九百二十五万円になりました。あと一步で目標額。被災地の皆さんこと、ズーっと忘れませんよ、という気持ちを伝え続けていくために、ご協力をお願いします」。

「震災、津波などの犠牲者二万人の遺族友人の方の悲しみは深く辛いままで、むしろ心の格差は広がっていると思います。この活動は宗派を問わずというより宗教の枠も超え、たくさんの方々にお力をいただき進んできました。私たち事務局は『人は悲しみやつらさを我がこととして受けとめる時、皆、いっぱいぬくもりをプレゼントして下さるのだ』と確信を頂くありがたい日々です。完成は近いです。本当にありがとうございます」と増田住職。

観音堂は今秋の落慶に向け進んでいる。

(取材・文石原恵子)

浄財募金 一口 千円から。

振込先▶ゆうちょ銀行 口座番号▶00550-4-101246 口座名▶見守り観音堂建立の会  
事務局 長野県佐久市平賀5064 電話 0267-82-6183 <http://mimamorikannon.wix.com/info>

奇跡の観音様 見まもり観音 見まもり観音堂建立の会	20
心に響く仏教のことは	18
私の人生、いつも音楽があった4	12
毎日書道	11
若い人たちよ、大いに悩みなさい	4
ご先祖さまのお墓参りをいたします	2

表紙・総持寺(撮影・戸塚博之)



長井龍道 仏教企画刊  
道元禅より見たる  
般若心経解説

定価2,200円(税別)

本書は道元禅師さまの目、道元禅師さまの説かれる本当の仏法の道理、という立場からの解説です。最近の曹洞宗の指導者たちの見解は、どうも道元禅師さまのお示しとは違った方向に行っているように思えてなりません。本書がその流れに投じられた一石となって、軌道修正の一助となれば、望外の喜びです。 本文より

下記宛にハガキ・電話・FAX・メールにて

お申込

仏教企画

〒252-0113 相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5  
電話：042-703-8641 FAX：042-783-0989  
Eメール：fujiki@water.ocn.ne.jp